

令和 5 年 6 月 30 日現在

機関番号：82727

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2022

課題番号：19K14145

研究課題名（和文）中国系ニューカマー第二世代の学業達成に関する集団内比較研究

研究課題名（英文）A Comparative Study of Academic Achievement among Second Generation Chinese

研究代表者

坪田 光平（TSUBOTA, KOHEI）

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構職業能力開発総合大学校（能力開発院、基盤整備センター）・能力開発院・助教

研究者番号：30735931

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、中国系ニューカマー第二世代の学業達成過程をインタビュー調査から明らかにするとともに、そのプロセスの異同や分岐をエスニック集団内部の差異に注目して検討した。その結果、親の来日経緯と出身階層には関連が見られ、家族の教育戦略には無視できない違いが示された。とくに親が大卒以上（元留学生など）の場合には親主導ともいえる学業達成過程がみられた一方、親が高卒以下（中国帰国者など）の場合には学業離脱のリスクを抱えていることも示された。大学進学率の高さが特徴ともいえる中国系ニューカマー集団とはいえ、そこには親の来日経緯や出身階層のみならず男女間格差や地域性に留意した慎重な検討の必要性が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

大学進学率の高さで知られる中国系ニューカマー集団に対して、日本国内では「教育熱心さ」というステレオタイプが付与されたり学業達成に「成功的」なモデルマイノリティ集団として見られやすいという問題があった。しかし、集団内部を比較する視点に立つ本研究は、中国系ニューカマー第二世代には順風満帆な学業達成が必ずしも約束されているわけではなく、集団内部に進む階層化に留意することによって学業上のリスクと必要な支援に目を向けるべきことを提起した点で重要な社会的意義をもつといえる。

研究成果の概要（英文）：In this study, the academic achievement processes among second-generation Chinese Newcomers were clarified through semi-structured interview, and compared by focusing on differences within the same ethnic group. The results showed that there is a relationship between the parental arrival history and their class origin, and that this relationship has a non-negligible effect on the educational resources available to the second-generation Chinese. While parents with a college degree or higher were found to lead the process of academic achievement, parents with a high school degree or lower were found to be young carer and at "risk" of dropping out of school. Although Chinese newcomers are known for their high rate of university enrollment, further analysis is needed to understand their academic achievement process, paying attention not only to differences in their ethnic background, but also to gender differences and regional characteristics.

研究分野：教育社会学

キーワード：学業達成 集団内比較 中国系ニューカマー 教育戦略

1. 研究開始当初の背景

2017 年末の在留外国人統計によれば、日本に在住する中国籍所持者は総数 70 万人以上を数え、国内では最大規模に位置するエスニック集団となっている。中国系ニューカマーについては中国国内における「改革開放」政策以降、主に日本の大学への「留学」や企業エンジニアをはじめとする「技術・人文知識・国際業務」など、高い人的資本を有する層が 1980 年代以降に増加したことで知られている。またそれに続いて、料理人として「技能」ビザを取得し家族を帯同する層や中国帰国者家族の永住帰国、さらに国際結婚の進展・増加もみられるようになり、2000 年代以降になると、滞日中国人家族には同一エスニック集団内部で顕著な「大衆化」が進んでいると指摘されている(高谷ほか 2015)。

親の来日経緯の多様化と並行して注目できるのは、第一世代の定住化にともなって、日本社会で生まれ育ち進学や就職を経験する第二世代も増加していることである。これまで中国系ニューカマー集団については、国勢調査をもとにその高い大学在学率が特徴として挙げられてきたものの、集団内部の多様化に留意した学業達成過程の詳細は十分に解明されてこなかった。そこで本研究では、集団内部にみられる階層化(とくに親の来日経緯と出身階層の多様化)に留意しながら中国系ニューカマー第二世代の学業達成過程を比較視点で検討するとともに、学業達成過程に岐分をもたらす要因を明らかにする必要があると考えた。

2. 研究の目的

同一エスニック集団内部における階層化に留意し、中国系ニューカマー第二世代の学業達成過程の解明に貢献することが本研究の目的である。この目的のため、本研究では多様な来日経緯のもとで育つ中国系ニューカマー第二世代にスノーボール形式でアクセスし、半構造化インタビューによってかれらの学業達成過程(とくに大学進学過程)を詳細に跡付けることを主な作業課題に設定した。またその際、「分節的同化理論」(Portes&Rumbaut 2001)を援用しながら、親の人的資本、家族構造、編入様式にも留意した分析を行い、とりわけ学業達成過程における「言語仲介経験」「家族の教育戦略」「エスニック文化」の影響についてもそれぞれ検討することとした。

なお、本研究の期間中に新型コロナパンデミックの影響が世界規模で生じた。このため、当初予定していた海外調査は断念してオンラインでのインタビュー調査にすべて切り替えるとともに、コロナ禍が調査対象者の生活に多大な影響を及ぼしている可能性を考慮してインタビュー調査設計を部分的に変更した。なかには、失業等の影響が顕著にみられたケースもあったことから、かれらを取り巻く支援の地域的文脈や関連するアクターにも留意したフィールド調査を発展的に実施することとした。

3. 研究の方法

本研究で用いた方法は大きく 2 つにわけられる。1 つは、中国系ニューカマー第二世代へのインタビュー調査である。本研究では来日経緯の多様性に留意した調査設計として、元留学生や企業エンジニアといった高度人材としての親をもつケース、中華料理人の親をもつケース、国際結婚家庭に生まれ育ったケース、中国帰国者の親をもつケースの計 54 名にアクセスし、1 名につき 2 時間から 3 時間程度の半構造化インタビューを実施した。インタビュー時の音声は調査対象者の同意のもと録音し、後日、すべてトランスクリプトした。

もう 1 つは、新型コロナパンデミックを踏まえた地域社会の構造とニューカマー支援の関係を検討するためのフィールド調査(ニューカマー支援を行う自治体での歴史資料の収集とインタビュー調査)の実施である。ただし、新型コロナウイルス感染拡大防止にかかる往来の自粛・不許可が度々発生したことによって、フィールド調査は対面接触のない歴史資料の収集(とくに東北地方)を中心に行うこととし、ニューカマー支援が生起する場やアクターの戦略をつかみながら、学校での支援が制度化されるプロセスに焦点を当てて検討することにした。

4. 研究成果

(1) 学業達成過程における「言語仲介経験」の影響

まず、インタビュー調査を通じて得られた 54 名の事例からデータセットを構築したうえで、義務教育段階における「言語仲介(日本語に不慣れな親のための通訳・翻訳など)」経験の有無が学業達成に与える影響を検討した。検討の結果、まず親の来日経緯と人的資本(学歴と日本語能力)の間には有意な関係があっただけでなく、親の人的資本が乏しい家族に育つ子どもほど、言語仲介経験を有意に多くもつことが明らかになった。また、言語仲介経験の内実について検討したところ、質的データからは日本語に不慣れな親の期待に応えようと、学齢期から言語仲介を実践(役所等の行政機関や学校の三者面談、不動産購入やハローワークへの付き添い・通訳など)しており、その過程で日々の登校中断が発生し高校進学に負の影響を及ぼしていることが示唆された。なかでも、中国帰国者や中華料理人の親をもつ家族においてこの実態が多く見られたことから、中国系のなかでも特定の来日経緯において学業上のリスクが潜在的に予想されること、

また中国系に限った問題として議論を閉ざすのではなく、(日本人を含む)ヤングケアラーの問題へと架橋しながら議論することの必要性、加えて、学校からは見えにくい言語仲介経験の実態把握と支援の可能性についてもさらなる検討が求められることを提起した。この研究成果については、2020年9月に開催された第72回日本教育社会学会大会にて共同研究発表を行うとともに、言語仲介経験にとどまらない学校経験の実態についても、2021年7月に刊行された共著図書に掲載された(坪田・劉 2020, 坪田 2021a)。

(2) 学業達成過程における「家族の教育戦略」の影響

親の来日経緯の多様性に注目し、元留学生やエンジニアで中国都市部出身の親をもつ場合と、中国帰国者で中国農村部出身の親をもつ場合を比較する視点にたち、それぞれの「家族の教育戦略」を検討した。その結果、前者の場合は親が大卒以上かつ流暢な日本語能力が確認された一方で、後者の場合は親が義務教育(中退者含む)で不自由な日本語にとどまるといった顕著な違いが見られた。この点は、親の日本社会への適応だけでなく、学校や進学に関する情報収集をはじめ、子どもの教育を支援する親の教育的関与の違いとなって表れていたことが確認された。すなわち、高資本の家族に育つ子どもほど親主導ともいえるトランスナショナルな教育戦略により、(英語習得を含む)流暢なバイリンガルや大学進学に向けた環境が幼少期から計画的かつ入念に支援されて家族関係も安定化する傾向にあったのに対して、低資本の家族に育つ子どもほど、親子関係には言語・文化面における相違から衝突や葛藤が顕在化しやすく、学業達成過程には子ども本人の努力に依存した進路形成が常態化していたのである。

その一方、子ども本人による独力での進路形成とはいえ、その道程には、学校の教師や友人、地域のボランティアやNPOといった地域的要因が学業達成を支える重要な意味をもつことも明らかになった。さらに注目すべき点に、移民家族の記憶の継承という要因も挙げられる。「中国残留日本人」として学業中断に見舞われた1世(中国残留婦人)の記憶と経験が世代にわたって継承されている場合、中国帰国者家族には、中国農村部にまつわる不平等なジェンダー規範からの解放とそのための大学進学が後続世代(とくに女性)に重視されていたのである。ジェンダーと密接な関係にあったこうした家族の教育戦略は、世代間にわたったジェンダー不平等の打開・克服を前提に、女性に対する高い教育期待と学業達成に望みをかけた「リターンマッチの物語」を特徴としており、親族コミュニティを含む家族関係の安定化と大学進学に寄与していたことも明らかになった。これら一連の研究成果については、2019年6月に行われた日中社会学会第31回学会大会にて報告するとともに、2021年7月に刊行された共著図書に掲載された(坪田 2021b, 2021c, 2021d)。

(3) 学業達成過程における「エスニック文化」の影響

同じくインタビュー調査の結果を用いてデータセットを構築し、学業達成と関わる早期結婚の影響を量的・質的な側面からそれぞれ検討した。多変量解析にもとづく分析の結果、まず「子ども本人の配偶者選択」に対する「親の介入」が存在する場合、子どもはその意向に沿うかたちで「中国人」を配偶者に選択しようとする有意な効果が示された。また、配偶者選択の志向性として表明された「中国人」の内実をインタビューデータからも検討した結果、「中国人」への意味付与は、学業達成と密接な関係にあることも明らかになった。すなわち、大学進学達成者が表明する配偶者の「中国人」志向とは、かれらの親世代と意思疎通可能な「中国語話者=中国人」を意味していたのに対して、非大学進学者の場合には、親世代と生活空間をともしする「親族コミュニティ成員=中国人」として配偶者を意味づけていたのである。また前者の場合は、日本語も中国語も堪能でハイブリッドなアイデンティティを形成する調査対象者にみられたのに対して、後者の場合は、親族コミュニティとの結びつきの強さとエスニック・プライドを強く表明する調査対象者にみられた。

こうした意味付与の違いには、エスニック文化である孝文化(両親を大事にするという価値観)の継承と同時に、大学進学を通じた高等教育での経験が関係していた。その一方、親の意向のもと早期結婚を選択していった調査対象者の場合、日本のメリトクラシー路線から離脱していくと同時に、親本位の結婚によって(離婚等のリスクを伴う)不安定な生活状況が確認された。これらの研究成果については、2019年9月に開催された日本教育社会学会第71回大会にて共同研究発表を行うとともに(坪田・劉 2019a)、査読付き学術論文誌とオープンアクセスの国際誌にそれぞれ掲載された(Tsubota & Liu 2020, 坪田・劉 2019b, 坪田・劉 2021)。

(4) コロナ禍が及ぼした影響と支援の社会的文脈

本研究の実施期間がコロナ禍にまたがり、世界規模で相次いでいるコロナ禍の外国人差別がエスニシティへの意味づけに変容をもたらす可能性を検討するため、その実態ならびに地域社会における支援の形成過程をその歴史を踏まえて明らかにした。まずコロナ禍の実態把握については、とくに日本社会で「武漢ウイルス」言説が認められたことと関係して「中国ルーツ」そのものの表出が困難になっていることや、仕事や居住地の選択を含む将来展望への変容が明らかになり、その成果の一部は2022年9月に開催された日本教育社会学会第74回学会大会にて共同研究発表を行った(角替ほか 2022)。

また、支援の場について検討したフィールド調査の結果、ニューカマー支援が地域社会で立ち上がるプロセスには「女性の政策提言」を積極的に推進する自治体の歴史的な文脈(とくに国連婦

人の10年以降)が影響していたことが明らかになった。また、ニューカマー支援を学校へと拡大していくミクロな局面において、特別支援教育にニューカマー支援を接合させようとするボランティア団体の言説戦略も明らかになり、今後、地域社会における支援の制度化過程やニューカマーが利用可能な教育資源を検討する際には、当該社会における歴史社会的文脈と抱き合わせながら支援者側の位置取りに焦点を当てる必要性が示唆された。以上の研究成果は、2020年8月に刊行された『異文化間教育』第52集ならびに2022年11月に刊行した共編図書にわたって掲載された(坪田 2020, 坪田 2022)。

引用文献

- 高谷幸・大曲由起子・樋口直人・鍛冶致・稲葉奈々子, 2015, 「2010年国勢調査にみる外国人の教育 外国人青少年の家庭背景・進学・結婚」『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』39, pp.37-56.
- Portes, A., & Rumbaut, R. G., 2001, *Legacies: The Story of the Immigrant Second Generation*, New York: Russell Sage Foundation.
- 坪田光平・劉麗鳳, 2019a, 「配偶者選択の志向性における家族とアイデンティティの影響 日本の中国系移民第二世代を事例に」日本教育社会学会第71回学会大会.
- 坪田光平・劉麗鳳, 2019b, 「中国系移民第二世代の配偶者選択に関する定量分析 出身階層とエスニック・アイデンティティに注目した予備的検討」『技能科学研究』36(3), pp.1-6.
- Tsubota, K., & Liu, L., 2020, *Intragroup Comparative Study on Achievement of Second-Generation Chinese Newcomer, Impact*, 2020(8): 6-8.
- 坪田光平・劉麗鳳, 2020, 「言語仲介者としての経験 中国系移民第二世代の事例から」日本教育社会学会第72回学会大会.
- 坪田光平, 2020, 「外国人非集住地域におけるマイノリティ支援の制度化過程 秋田のボランティア団体の事例から」『異文化間教育』52, 50-67.
- 坪田光平, 2021a, 「困難経験の異同と階層性 中国系の学校経験」清水睦美・児島明・角替弘規・額賀美紗子・三浦綾希子・坪田光平『日本社会の移民第二世代 エスニシティ間比較でとらえる「ニューカマー」の子どもたちの今』明石書店, pp.263-290.
- 坪田光平, 2021b, 「タイガーマザー言説と『中国式』教育方法再考 日本における中国系第二世代の語りから」日中社会学会第31回学会大会.
- 坪田光平, 2021c, 「国境を越えるキャリア志向 中国系のトランスナショナリズム」清水睦美・児島明・角替弘規・額賀美紗子・三浦綾希子・坪田光平『日本社会の移民第二世代 エスニシティ間比較でとらえる「ニューカマー」の子どもたちの今』明石書店, pp.511-537.
- 坪田光平, 2021d, 「農村家族の教育期待と第二世代の進路形成 中国系の女性たち」清水睦美・児島明・角替弘規・額賀美紗子・三浦綾希子・坪田光平『日本社会の移民第二世代 エスニシティ間比較でとらえる「ニューカマー」の子どもたちの今』明石書店, pp.417-442.
- 坪田光平・劉麗鳳, 2021, 「中国系移民第二世代が語る配偶者選択の志向性 ライフストーリー分析を通して」『日中社会学研究』28, pp.74-88.
- 坪田光平, 2022, 「外国人住民に向けた日本語支援の実現 秋田の女性たちによる政策提言活動から」吳永鎬・坪田光平編『マイノリティ支援の葛藤 分断と抑圧の社会的構造を問う』明石書店, pp.91-120.
- 角替弘規・清水睦美・児島明・額賀美紗子・坪田光平・三浦綾希子・藪田直子・劉麗鳳, 2022, 「移民第二世代の追跡調査 コロナ禍における仕事・家族・差別」日本教育社会学会第74回学会大会.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 2件）

| | |
|--|----------------------|
| 1. 著者名 坪田光平 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 親族コミュニティとの狭間で 中国帰国者三世のエスニック・アイデンティティ | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 『日本社会の移民第二世代 エスニシティ間比較でとらえる「ニューカマー」の子どもたちの今』 | 6. 最初と最後の頁 97-123 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 坪田光平 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 困難経験の異同と階層性 中国系の学校経験 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 『日本社会の移民第二世代 エスニシティ間比較でとらえる「ニューカマー」の子どもたちの今』明石書店 | 6. 最初と最後の頁 263-290 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 坪田光平 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 イントロダクション 出身国のジェンダー規範の世代間継承 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 『日本社会の移民第二世代 エスニシティ間比較でとらえる「ニューカマー」の子どもたちの今』明石書店 | 6. 最初と最後の頁 375-392 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 坪田光平 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 農村家族の教育期待と第二世代の進路形成 中国系の女性たち | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 『日本社会の移民第二世代 エスニシティ間比較でとらえる「ニューカマー」の子どもたちの今』明石書店 | 6. 最初と最後の頁 417-442 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 坪田光平 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 国境を越えるキャリア志向 中国系のトランスナショナリズム | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 『日本社会の移民第二世代 エスニシティ間比較でとらえる「ニューカマー」の子どもたちの今』明石書店 | 6. 最初と最後の頁 511-537 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 坪田光平 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 親子の衝突 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 『日本社会の移民第二世代 エスニシティ間比較でとらえる「ニューカマー」の子どもたちの今』明石書店 | 6. 最初と最後の頁 601-611 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-------------------|
| 1. 著者名 Tsubota Kohei, Liu Lifeng | 4. 巻 2020 |
| 2. 論文標題 Intragroup comparative study on achievement of second generation Chinese newcomer | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 Impact | 6. 最初と最後の頁 6~8 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.21820/23987073.2020.8.6 | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 該当する |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 坪田光平・劉麗鳳 | 4. 巻 28 |
| 2. 論文標題 中国系移民第二世代が語る配偶者選択の志向性 ライフストーリー分析を通して | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 日中社会学研究 | 6. 最初と最後の頁 74-88 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-------------------|
| 1. 著者名 坪田光平・劉麗鳳 | 4. 巻 36(3) |
| 2. 論文標題 中国系移民二世代の配偶者選択に関する定量分析 出身階層とエスニック・アイデンティティに注目した予備的検討 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 技能科学研究 | 6. 最初と最後の頁 1-6 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計4件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

| |
|--|
| 1. 発表者名 宮地さつき・坪田光平 |
| 2. 発表標題 農村における母子の生存保障 福島県旧白沢村を事例にして |
| 3. 学会等名 日本教育社会学会第73回学会大会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--------------------------------------|
| 1. 発表者名 坪田光平・劉麗鳳 |
| 2. 発表標題 言語仲介者としての経験 中国系移民二世代の事例から |
| 3. 学会等名 日本教育社会学会第72回学会大会 |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 坪田光平・劉麗鳳 |
| 2. 発表標題 配偶者選択の志向性における家族とアイデンティティの影響 日本の中国系移民二世代を事例に |
| 3. 学会等名 日本教育社会学会第71回学会大会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 坪田光平 |
| 2. 発表標題 タイガーマザー言説と「中国式」教育方法再考 日本における中国系第二世代の語りから |
| 3. 学会等名 日中社会学会第31回学会大会 |
| 4. 発表年 2019年 |

〔図書〕 計2件

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 清水 睦美、児島 明、角替 弘規、額賀 美紗子、三浦 綾希子、坪田 光平 | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 明石書店 | 5. 総ページ数 704 |
| 3. 書名 日本社会の移民第二世代 | |

| | |
|----------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 額賀美紗子、芝野淳一、三浦綾希子 | 4. 発行年 2019年 |
| 2. 出版社 ナカニシヤ出版 | 5. 総ページ数 264 |
| 3. 書名 移民から教育を考える | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

| | | | |
|---------|---------------------------|-----------------------|----|
| 6. 研究組織 | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|---------|---------------------------|-----------------------|----|

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| | |
|---------|---------|
| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|